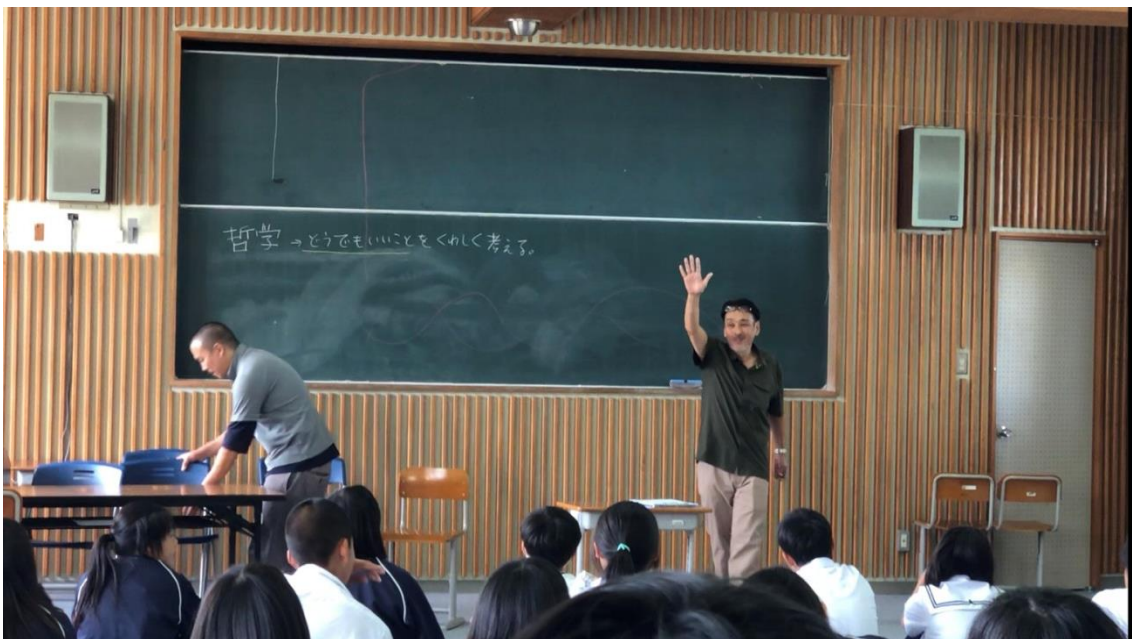


2年生哲学シリーズ①

10月7日（月）に、「生き方（道徳科）」での「哲学対話」の実施にむけて、校長先生に授業をしてもらいました。「どんな話するんやろう？」といった期待や、「哲学って一体何なん？」といった疑問まで、子どもたちみんなが「哲学対話」に関心をもって授業に臨んでいました。さっそく校長先生から、「哲学って何やと思う？」という質問。みんなが頭を悩ませる中、「どうでもいいことを深く考えること！」とある生徒が答え、「その通り！」と返す校長先生。あっという間に校長先生の話に引き込まれていく子どもたちの姿がありました。



「哲学は『○○って何？』を考えること」

一言に「私」といっても、その「私」は誰が決めるものなのだろう？「私」のことは「私」自身が決めることだ！と思っても、周りの人たちが見ている「私」が自分の思っている「私」とは違って存在することもある。そもそも「私」って何を見て判断しているの？中身が全く別人で外見が校長先生なら、その人は校長先生？逆に、外見は全く別人だけど中身（考え方など）が校長先生なら、その人は校長先生？こういった疑問を投げかけられて、子どもたちはあまり深く考えていなかった「私」について考えているようでした。

また、校長先生は、自分が大学で哲学を勉強するきっかけとなる、自分の「生い立ち」の話もしてくださいました。校長先生が生きてきた人生の中で「私って何？」「家族って何？」「差別って何？」「そもそも人間って何？」と考えてきたこと。そして、それを考えざるを得ない状況にあったこと。子どもたちはとても真剣に聴いていました。じっと校長先生の話聴きながらポソッと「哲学って自分の生き方を考えることやなぁ」とこぼしている子

もいれば、「自分の家のことと重なったわ」という子、目を潤ませ「うんうん」と頷きながら話に聴き入っている子、「俺も『自分って何?』って考えたりするねん」と終わってから話している子など、授業を終えて、「自分や自分に関わるいろんな事を『それって何?』と対話しながら振り返る学習にしてほしい。」という校長先生の思いを子どもたちがそれぞれに真剣に受け止めている姿がありました。